

シラバス参照

開講年度	2010
科目名	コンピュータと経済学
職名／担当教員	経済学部 教授 望月 宏
期間／曜日／時限	通年 水曜日 4時限
開講区分／校舎	一部生田／生田
配 当	E 2 3 , W 2 3 4
単 位	4

講義内容	<p><講義概要> 現代の経済社会の分析には多くの経済データを利用することができるようになり、それとともにこれらを迅速に処理するコンピュータが様々な分野で活用されるようになった。経済白書における回帰分析を使った経済分析などはその代表的なものである。コンピュータシステムの理解と、それを利用した経済分析の手法を学ぶことはますます重要になりつつある。この講座はコンピュータを利用して自ら科学的な経済分析を実践するとともに、経済学の基礎的な概念についての洞察を深めることを目的とする。授業はコンピュータシステムの理解、表計算言語の習得に始まり、経済理論、統計学、数学の理解の上にならした経済分析を行うため、内容が多岐にわたる。具体的には回帰分析を中心にしつつも、経済理論のコンピュータシミュレーション、産業連関分析など幅広い経済分析を学ぶ。なお、独自掲示板を授業におけるコミュニケーション、情報の収集、発信に積極的に活用する。</p> <p><講義計画> コンピュータシステムの歴史と構造 …大型コンピュータとパーソナルコンピュータ …オペレーティングシステム …表計算のソフトウェアの理解 …インターネットの仕組み</p> <p>経済学の定義 …リニアプログラミングを使った限られた資源の有効活用による目的の適正化の理解 基礎的な経済理論のコンピュータシミュレーション …限界概念、双対定理 経済数学 …マトリックス演算 計量経済分析に必要な統計、数学（初級） …最小二乗法、正規方程式、微分 …パラメーター検定 表計算言語による計量経済分析のプログラミング 簡単なマクロ経済モデリング 産業連関分析を通じた日本経済の構造的変化</p> <p><教科書・参考書> 授業内で指示する。</p>
成績評価方法・基準	全回出席と真摯な授業態度を原則とした上で、毎回の授業のまとめ、論考、および課題をネット上へ提出、小テストの評価、および最後の総合テストにより判定する。
履修上の留意点	<受講前条件・関連科目> コンピュータの操作の授業ではなく、コンピュータを道具として経済学、および経済分析の理解を深めるための授業であることに注意。マクロ、ミクロの経済原論、経済数学、統計学の授業との関連が深い。
担当教員へのアクセス	メールによる (mochizuki@post.harvard.edu)
その他	

更新日付	2010/02/12 22:24
------	------------------